

北海道土を考える会 十勝エリア

第3回 土壌断面調査勉強会を開催しました。

2023年10月26日

北海道土を考える会は、10月20日(金)、21日(土)に十勝エリアでの土壌断面調査勉強会を実施いたしました。現地で調査していただいた農研機構 農業環境変動部門(農環研)の前島勇治氏よりのコメントと合わせてご報告させていただきます。



農環研の前島氏(左)と、ほ場をご提供いただいた小尾様

北海道中川郡幕別町新和 小尾農場 (前作:小麦)

明倫台地の小起伏面に噴出年代の違う火山灰が堆積してできた土です。深さ約50cmの暗褐色の作土層は、新しい火山灰(樽前山)でハーフソイラ、プラウ、バーチカルハロー、の施工深により3層に分かれます。その下の褐色土層は古い火山灰(恵庭岳)でリン酸吸着力が非常に強いいため、

褐色土層を作土層へ持ち上げないことが大切です。断面全体を通じて保水性・排水性ともに良好で、硬く締まった耕盤層が形成されていないため、小麦の根は深さ70cmまで達しています。軽い土に加えて傾斜地のため、風食や水食から作土をいかに守るかが課題でしょう。

